（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいろスペース			
○保護者評価実施期間	2026年　3月　10日	～	2026年　3月24日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	７人	（回答者数）	５人
○従業者評価実施期間	2026年　3月　10日	～	2026年　3月24日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4人	（回答者数）	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　4月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の丁寧な共有と同意	児童発達支援計画の作成にあたり、保護者の意向を丁寧に汲み取り、内容の説明と同意を徹底している（保護者評価100%）。	子どもの成長段階に合わせ、5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）の視点をより分かりやすくフィードバックする。
2	家族に寄り添った相談支援体制	日頃のコミュニケーションに加え、面談や助言などの相談支援が適切に行われており、保護者の安心感に繋がっていると考える。	専門職としての助言だけでなく、保護者の「ありのまま」の気持ちに寄り添う姿勢を大切にし、家族全体の心理的サポートを継続する。
3	ICTを活用した透明性の高い情報共有	日々の活動内容を写真等で共有し、事業所での子どもの様子を可視化することで、家庭との共通理解を深めている。	活動の意図（どの領域の成長を促しているか）を添えるなど、一歩踏み込んだ情報発信を行い、支援の質の理解を深めてもらう。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間の構造化と環境整備	自己評価において、子どもの特性に合わせた「空間の構造化」や「清潔感の維持」に課題があると認識している（職員間での評価が分かれた）。	視覚支援（絵カードやパーテーション等）の再点検を行い、子どもが「次に何をすればいいか」直感的に分かる環境を整える。また、清掃・整理整頓のルーチンを再徹底する。
2	保護者同士の交流機会の創出	地域性や保護者の就労状況（観光業等）により、対面での交流会設定が難しい。保護者アンケートでも、横のつながりを求める声や、交流の場への評価が分かれる結果となっている。	対面での集まりが難しい場合も、日々の情報共有を通じて「自分だけではない」という安心感（共感）を得られる場を作り、心の孤立を防ぐ。 また、きょうだい児支援プログラムの開催に合わせ短時間でも気軽に立ち寄れる場を検討していく。
3	非常時対応マニュアル等の周知	避難訓練や緊急時対応の体制は整えているが、保護者への具体的な周知・説明がまだ十分でないと感じる方が一部存在する。	避難訓練の様子を写真で報告したり、LINEのリッチメニュー等に「緊急時マニュアル」を常設したりすることで、いざという時の安心感を高める。